

平成 26 年度 北広島市立西部中学校自己評価及び学校関係者評価

作成日	平成27年 3月 2日
校長名	鹿野 秀一

1 学校の教育目標

○自ら考える生徒 <創造>	○思いやる生徒 <誠実>
○行動する生徒 <自主>	○きたえる生徒 <健康>

2 今年度の経営の重点と基本方針

<p>学校経営の重点 一人一人が輝き、躍動感あふれる学校 (スクールコンセプト) ～「確かな学力を身につけ、豊かな人間性・社会性を育む」教育の推進～</p> <p>(1) わかる授業を構築し、学ぶ喜びをもてる学校 (2) 豊かな人間性を育み、夢に向かう力を育てる学校 (3) 家庭や地域、小学校との連携を深め、信頼される学校 (4) 美しい環境を保ち、安全に過ごせる学校</p>

3 今年度の経営の具体方針

<p>(1) 確かな学力の定着を図る学校 P D C A サイクルに基づく教育課程の編成・実施を行い、学ぶ意欲を喚起させながら学習習慣を定着させ指導方法の工夫改善によるきめ細かな指導と個に応じた指導等を図りながら学力の向上をめざす。</p> <p>(2) 豊かな心を育み、自主・自律性を高める学校 思いやりの心や自立心を育むと共に、共感的人間関係を築き、将来に夢を持ち、理想を掲げ、自らの力で切り拓くことのできる、実践力のある生徒の育成に努める。</p> <p>(3) 健康・安全に努め、体力向上に励む学校 発育・発達途上にある生徒の健康の保持増進、体力の向上を図り活力にあふれる生徒の育成に努める。</p> <p>(4) 保護者や地域社会から信頼を得る開かれた学校 C S として、小学校との連携を密にしながら、保護者、地域へ積極的な送受信を行い、協和の精神と相互の信頼関係を確立し、保護者や地域社会と一体となって子どもの健全育成に努める。</p> <p>(5) 組織体としての協働体制を確立し、互いに研修し学び合う学校 教師一人一人の主体性を尊重し、明るく活気のある職場づくりと協働体制を確立するとともに、英知を結集し、研修や実践を深めながら、学校力を高める。</p>

4 自己評価・学校関係者評価

* 自己評価項目の評価～上段：教職員 中段(): 昨年度 下段：保護者

評価項目		自己評価 (評価は4段階評価の平均)			学校関係者評価結果 及び意見
大項目	小項目	取り組み状況と 成果・課題	評価	改善策	
1	学校経営 教育課程 (重点目標)	①学校教育目標達成のために教職員の組織力を高め、教育活動を展開すると共に、地域・保護者との連携を強め、信頼される開かれた学校づくりを行う。 ◇教職員の課題の共有化はできた。さらにチームとして成果を生み出すため、同僚性の発揮、協働体制の確立が急務。 ◇各種通信、HPの充実により、発信活動は充実したが、保護者の理解・協力を得る十分な連携にまでは至っていない。	3.5 (3.2) 3.4	◇研修の充実や課題の共有化を図ることとで、教育目標に近づくための組織的な取組を創造していく。 ◇情報発信内容・方法の工夫、多くの機会での地域・保護者のニーズの受信を充実させることとで、開かれた学校づくりを推進す	<p>A</p> 学校から配布されるたよりやホームページは、内容が豊富で写真も多く、活動の様子がよくわかる。C S の取組が2年を経過して、保護者・地域に浸透しつつあるが、C S カレンダーと各種たよりの校正の工夫など、さらに広報活動を改善す

		<p>◇一部の保護者、地域との連携は強まっている。子どもの活動を多くの方に見ていただく機会の拡充が必要。</p>		<p>る。 ◇土曜授業(地域公開)の実施(2回)、CS活動のさらなる充実、地域・保護者との日常的な双方向の連携を図ることで、地域・保護者とともにある学校づくりをめざす。 ◇キャリア教育の推進、「夢ノート」の実践を通して、未来の社会人を育てる教育の充実に努める。</p>	<p>ることで、CSが広く認知されていくことを期待する。また、保護者・地域の方が数多く学校へ足を運び、普段の教育活動を認知できるような機会を増やしていくことも期待したい。</p>	
2	<p>やさしく 道徳教育 生徒指導</p>	<p>②豊かな人間性を育む教育を推進し、心豊かで思いやる児童・生徒を育てる。</p> <p>③地域を愛する心と態度・行動力を育む教育を推進し、やがては地域・社会に貢献できるような児童・生徒を育てる。</p>	<p>◇学校行事や生徒会活動等を通して、思いやりや優しさ等心の豊かさが育成されつつある。 ◇一部の生徒で、Line等に関わるトラブルがあった。今後の対策が急務である。 ◇夢がなく、自分に自信が持てない子どもが少なくなく、自己肯定感の高揚に取り組む必要がある。</p> <p>◇CSとしての地域の支援、地域への貢献活動、体験的な活動の充実により、子どもたちの心は確実に育っている。 ◇さらに、ふるさと意識や自己有用感を育てる取組にしていきたい。 ◇キャリア(生き方)教育、道徳教育について進め方を整理し、目標達成に至る計画を確立する必要がある。</p>	<p>3.3 (2.9) 3.2</p> <p>3.3 (3.1) 3.2</p>	<p>◇学級・学年を基盤とした心の教育の実践や、道徳教育の充実を図ることで、学ぶ集団づくりと豊かな心の育成に努める ◇小学校との連携を密にする中で、基本的な生活習慣確立のための、西部スタンダードを確立し、保護者とともに心の育成に努める。 ◇CS組織の改編、広報活動の工夫により、地域の理解・支援協力をさらに充実させ、西部のよさを生かした教育活動を開発、実践していく。 ◇キャリア(生き方)教育に視点を置いた小中連携の教育課程を確立し、9年間を見通したためざす子ども像を明らかにした教育活動の充実を図る。</p>	<p>A 地域でのあいさつ、地域行事への積極的な参加など、豊かな心が育ってきていると感じる。Lineの問題は大きな課題と捉え、保護者と連携した取組につなげて欲しい。 小中連携して、地域の子どものためによりよい教育活動を展開することを期待する。 また、西部のよさを生かした地域ぐるみの教育活動を確立していくことも重要である。</p>
3	<p>かしく 学習指導</p>	<p>④確かな学力を育む教育活動を展開し、自ら考え進んで学ぶ児童・生徒を育てる。</p>	<p>◇授業への取り組み方は良好であるが、基礎学力の定着が見られない生徒が多く、学力の向上が大きな課題である。 ◇補充学習や退職教員を活用しての放課後学習、TT・習熟度別などきめ細かな指導を充実させることができた。 ◇自ら学ぶ意欲づくりと学習習慣確立を重点課題として、学力の向上に向けた実効性ある取組を展開していく必要がある。</p>	<p>3.0 (3.0) 3.1</p>	<p>◇細部の学力分析を行い、実効性のある学校改善プランの作成とその実践に努める。また、小中連携での学力分析交流・対策を継続発展させる。 ◇西部スタンダードを早期に確立し、家庭との連携・啓発を積極的に行い生活改善と家庭学習習慣の確立に努める。 ◇CS学習支援の充実を図る。 ◇研修等を通して、教師の指導力の向上に努める。</p>	<p>B 学力向上が喫緊の課題であり、学校がその解決に向けて様々な取組を行っていることがわかった。生徒の変容につながる効果的な取組となるよう工夫改善に努めて欲しい、CS活動も利用しながら、保護者の支援・協力を得ていくことも必要。</p>

<p>4 健康・安全</p> <p>たくましく</p>	<p>⑤心身の健康を育む教育を推進し、健康でたくましく、きたえる児童・生徒を育てる。</p>	<p>◇大きな事故・ケガもなく学校生活を送ることができた。安全点検や保健指導、業務主事やPTAの協力により、安全安心な環境整備等ができている。</p> <p>◇体育活動、体育的行事によく取り組み、体力づくりにも意欲的だが、体力の低下が見られる。</p> <p>◇個人の習い事や地域のクラブチームや少年団等、多様な学校外活動に所属する生徒も多く、部活動の加入率の低さが課題となっている。</p> <p>◇自然災害、食物アレルギーをはじめ様々な問題に適切に対応するための学校体制づくりが急務である。</p>	<p>3.1 (2.9) 3.3</p> <p>◇定期的・日常的な安全点検の充実、災害時の避難訓練の検討等、安全教育の充実にさらに努めていく。</p> <p>◇体育活動を工夫することで、体力の向上に努め、自己の健康を管理する知識と実践力を身につけさせる。また、日頃から運動に親しむ環境づくりに努める。</p> <p>◇部活動は、新設・統廃合も含め、充実するよう検討していく。小中連携も意識して、定期的に小学生の参加を促すなど、部活動に親しむ機会を創出する。</p> <p>◇地域とともに危機管理に関わる学習機会をつくり、対応力を高める。</p>	<p>B</p> <p>小学校で体力向上の具体的な取組がなされてきていることを参考に、中学校でも生徒の意識を向上させるための手立てを工夫していく必要がある。</p> <p>部活動の活性化についても、小中連携して取り組めることはないか模索して欲しい。</p> <p>地域としても子どもたちのスポーツ活動を可能な範囲で応援していきたい。</p>
<p>5 特別支援教育</p>	<p>⑥生徒個々の発達段階やニーズに応じた特別支援教育推進し充実に努める。</p> <p>⑦児童・生徒交流を行い、全教職員の協力体制のもと指導に当たる。</p>	<p>◇特別支援学級に限らず、教科や日常生活の中で、支援を要する生徒が増加傾向にある。</p> <p>◇コーディネーターを中心に教職員で協力し合い個別支援計画を作成し、支援体制を確立して対応することができた。</p> <p>◇今後も、特別支援委員会、生徒指導交流や関係機関との連携を充実させ、「個に応じた指導・支援」に努めていく必要がある。</p>	<p>3.8 (3.7) 3.1</p> <p>3.5 (3.4) 3.1</p> <p>◇小学校との引き継ぎを充実させ、個々の生徒理解に努め、指導方法、指導内容、指導体制の工夫改善を進める。</p> <p>◇コーディネーターを2名体制にし、支援を要する生徒の指導の充実に努める。</p> <p>◇生徒理解、保護者との共通認識、他機関との連携を進め、生徒個々の発達段階やニーズに応じた支援教育を推進する。</p>	<p>A</p> <p>配慮を必要とする生徒が増加傾向にあること、またそれに対して指導計画を立てて指導に当たっている様子がわかった。今後も、生徒理解や保護者との連携を強化しながら、一人一人の生徒を大切にしたい指導を心がけて欲しい。</p>
<p>6 北広島市共通実践課題(環境・福祉・人権・平和教育)</p>	<p>⑧環境・福祉・人権・平和教育を充実するために、学校を取り巻く教育環境や地域の教育力を生かしながら思考力・判断力・表現力そして実践力を育てる。</p>	<p>◇西部中の特色ある教育活動として、カボチャ栽培や寄贈、除雪ボランティア、福祉体験、国際交流、地域施設や職業体験等、地域の協力を得ながら「体験的な活動」や行事等に取り組むことができた。</p> <p>◇地域行事にも多くの生徒、先生が積極的に参加し、「地域とともに」の意識が高まりつつある。</p> <p>◇西部のよさを生かした「キャリア教育」の推進計画を確立させる必要がある。</p>	<p>3.4 (3.4) 3.2</p> <p>◇「地域とともにある学校づくり」は西部地区の今まで築いてきたものであり、CSの活動を生かしながら、さらに関係機関との効果的な連携を図り、地域の教育力の活用、地域貢献の両面を実践していく。</p> <p>◇今までの実践を生かしながら、教育活動を整理し、西部地区の「キャリア教育」の確立に努める。</p>	<p>A</p> <p>多岐にわたり特色ある教育活動が展開され、成果を上げてきている。</p> <p>地域性を生かし、地域力の活用、さらに地域への貢献活動を充実させ、生徒にふるさとを愛する心を育てて欲しい。</p>

<p>7 学校設定 項目 小中連携 教育</p>	<p>⑨小中の接続が円滑に行えるように、連携教育の推進に努めているか。</p>	<p>◇小中合同研修会を複数回実施し、義務教育9年間の目指す子ども像や課題を明確にするとともに、協働で取り組む教育活動について確認することができた。 ◇喫緊の課題「学力の向上」「夢を持たせること」「自己有用感」等に対応するための小中連携教育の充実が急務である。</p>	<p>3.7 (3.2) 3.1</p>	<p>◇CS委員会の熟議や意見を教育活動に最大限生かしながら、小中連携して協働で実践する活動を確立し、子どもたちに確かな力を育てていく。 ◇小中が共通して取り組むことができる実効性ある教育活動を整理し、小中のスムーズな接続を意識した「西部スタンダード」の確立をめざす。</p>	<p>A 小中の接続・連携が年々深まってきている。CSのツールを使って、熟議等によって取組を検証し、実効性ある教育活動を確立していくことを期待する。</p>
--------------------------------------	---	--	------------------------------	--	---

5 今後の方向性についての校長の所見

総合的に、学校側（教師）の評価と保護者の評価（4段階評価の平均点）に差異が見られること、小学校での保護者の受け止め方との違いなどについて、しっかりと分析していく必要があることを指摘していただいた。今後、その分析に努め、教育活動の工夫改善や保護者との連携強化につなげていきたいと考える。

次年度の課題を「学力向上」「夢を持ち、それに向けて学び続ける生徒の育成」「自己有用感の醸成」とし、北広島市の実践目標達成の手立てである「未来の社会人を育てるキャリア教育の推進」を進めるとともに、小中連携の充実やCS活動の支援を有効的に活用し、課題克服に挑んでいきたい。

そのために、これまでの学校経営の積み重ねを踏まえつつ、RPDCAサイクルを機能させながら学校教育目標の達成をめざしていく。さらに、急激な社会の変化、多様な価値観の存在する現実をしっかりと踏まえ、生徒一人一人には、時代の変化に対応できる柔らかい感性で、未来の社会人として生き抜く力を身につけさせたい。また、西部地区のよさを生かした体験的な活動を通して、豊かな心を育成しながら自立して未来を志向し、夢と希望を持ちながら自己実現を図っていくために必要な資質や能力の基礎を確かなものにしていく。コミュニティ・スクールとして家庭・地域・小学校と連携、協働しながら互いに子どもの教育の当事者意識を持ちながら「地域とともにある学校づくり」に邁進していきたい。